

◎学校支援センター

地域の教育力を活用した教育活動の充実を目指して、地域の方々が学校の諸活動に協力するための拠点。県内すべての市町村立小・中・特別支援学校に設置されている。

◎コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。

コラム

ぐんまの家庭教育応援条例

平成28年4月1日に施行されました。現在、核家族化や共働き世帯の増加などにより、家庭の教育力が低下していると言われています。

この条例は、学校、地域住民、地域活動団体、事業者等が協力し、社会全体で家庭教育を応援していくために制定されました。

今の時代にこそ必要な「学校・家庭・地域の連携」

吉井西小は、学校・地域連携の好例ですが、他の学校にはない、特別な条件のおかげでこのような学校になったわけではありません。

重要なことは、「学校・家庭・地域の連携」がスムーズに行われていることなのです。

近年、核家族化により親以外の大人が少ない家庭が増えたり、地域づきあいが少なくなるにつれて地域の大人が近所の子どもに関わる機会が少なくなったりと、子どもに関わる大人の数が少なくなってきたと言われています。

子どもと関わる大人と聞いて、すぐに思い浮かぶのは教員ですが、もし学校が、家庭や地域の大人たちが担ってきた役割までも果たそうとすると、今度

は教員が子どもに向き合う時間が減ってしまい、学校の本来の役割である「子どもに教えること」に十分な力を発揮できなくなるおそれもあります。

子どもの育成のためには、学校だけでなく、様々な大人の力が必要です。吉井西小の例では、子どもの安全が図られたり、子どもに多様な体験をさせられたりといった、よい結果が示されました。

子どもを取り巻く環境が変化した今の時代にこそ、「学校・家庭・地域の連

携」を意識して、大人同士が手をとりあい、皆で子どもにとっ

てよい環境を作るために、一緒に考えることが必要なのではないのでしょうか。

昨年度、県教育委員会が中心となり、学校・家庭・地域の代表者が集まって、子どものためにそれぞれができることは何か、を話し合いました（学校・家庭・地域のあり方検討会議）。その結果、下の図のような三者がそれぞれの役割をしっかりと果たすこと、またその上で、お互いに協力して「共育」することが大切だ、ということが確認されました。

学校 教える

学習内容の定着・いじめ防止・集団行動など

家庭 しつける

早寝早起き朝ごはん・各家庭でのルール作りなど

地域 見守る

通学路の見守り・地域行事参加など

▲「学校・家庭・地域のあり方検討会議」で確認された三者の役割分担

学校支援ボランティアに参加するには…

自分の子どもが通っている学校でボランティアをしてみたいけど、なかなか最初の一步が踏み出せない…

そんな方も多いのではないのでしょうか。

「自分には資格も特技もない」

ボランティアをするには、特別な資格や技術は必要ありません。

校門でのあいさつ運動や、読み聞かせ、地域のパトロールなど、重要で、誰にでもできる役割がたくさんあります。

大切なのは、「子どもを想う気持ち」だけです。

「毎日活動するのはとてもムリ」

毎日参加する必要はありません。色々な人たちが、できるときに、無理なく参加して、協力し合うことが大切です。

週の一、朝の一時間から、活動に参加してみたいかがでしょうか。

こんなボランティアが行われています

各学校では、読み聞かせや授業補助、環境整備、遠足の引率の他、昔遊びや絵画指導など、地域の方の専門性を活かしたボランティアも行われています。

内容は学校によって異なります。まずは学校に相談してみてください。

実際に活動している方の声

読み聞かせや鼓笛指導のボランティアを通じて、多くの子が手を振ってくれるようになったことが嬉しいです。他の子どもたちの成長も見られることが、とてもやりがいになっています。

(吉井西小保護者ボランティア)



米・野菜作りボランティア (吉井西小)



ボランティア感謝の集い (吉井西小)